

令和7年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	地理総合	単位数	2単位
区分	必修	配当年次	2年次

1 科目の目標

<p>①目的に応じた地図や地理情報システムの活用方法について、主体的に追究し、課題を見いだす。</p> <p>②国家の領域の定め方や領土問題、世界の国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴について、地図を通して主体的に追究し、課題を見いだす。</p> <p>③地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他地域との結びつきに着目しながら、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切かつ効果的に情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。 ②データ図表や地図を読み取り地域の特徴・差異を表現できる。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	①定期考査1～5の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査①～⑤の評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容をしっかり書き留めているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

4 年間指導計画

	学習の内容	考査範囲	時数
前期	1部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界	定期考査1	15
	4月 1章 地球上の位置と地上の現象		
	2章 地図や地理情報システムと現代世界		
	3月 2章 結びつきを広める現代社会		
	1章 現代社会の国家と領域		
	2章 グローバル化と国家間の結びつき		
	3章 世界を結ぶ貿易と交通・通信		
	4章 観光と人の移動のグローバル化		
	2部 国際理解と国際協力		
	6月 1章 生活文化の多様性と国際理解		
世界の地形と人々の生活			
世界の気候と人々の生活			
世界の産業と人々の生活			
7月 世界の宗教・民族・言語と人々の生活	定期考査3	16	
生活文化と地理的環境			
8月 経済発展による生活文化の変化			
9月 宗教と歴史	定期考査4	16	
中国			
韓国			
インド	定期考査5	16	
中央・西アジア			
北アフリカ			
10月 自然環境と生活	定期考査5	16	
サハラ以南アフリカ			
ヨーロッパ			
10月 寒冷気候と生活	定期考査5	16	
ロシア			
アメリカ			
産業技術の発展と開発の歴史	定期考査5	16	
ラテンアメリカ			
オセアニア			
11月 2章 移住の影響	定期考査5	16	
人口の増加と少子化・高齢化			
食糧問題			
12月 2章 地球環境と国際協力	定期考査5	16	
都市・居住問題			
感染症・衛生問題			
12月 資源・エネルギー問題	定期考査5	16	
地球環境			
3部 持続可能な地域づくりと私たち			
1月 1章 自然環境と防災	定期考査5	16	
日本の自然環境			
地震・津波・火災			
2月 2章 生活圏の調査と地域の展望	定期考査5	16	
気象災害や防災			
地理的な調査の設定・調査結果の分析・仮説の検証			
	WebGISを活用した統計地図の作り方		

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

<p>日頃から新聞やニュースなどを見聞きし、社会全般に関心を持つこと。また授業を大切に板書や説明を参考に自分なりにまとめ、まとめたことについて考え、考えたことを発表できるようにする。</p>

6 教科書・副教材

<p>教科書・・・ 帝国書院『高校生の地理総合』 帝国書院『標準高等地図』</p>

令和7年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	歴史総合	単位数	2単位
区分	必修修	配当年次	3年次

1 科目の目標

<p>(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる資質・能力を身に付ける。</p> <p>(2) 歴史的事象の意味や意義、特色などを、時代や年代、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、構想したことを説明・議論する力を身に付ける。</p> <p>(3) 我が国の歴史および他国の文化を尊重することの大切さについて自覚を深める。</p>

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切かつ効果的に情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	①日本とヨーロッパ・東アジアなどの社会や文化、国際関係に関する間について、歴史的な見方・考え方に基いて思考し、複数の根拠を基に判断・表現できている。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価方法	①定期考査1～5の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査①～⑤の評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容をしっかり書き留めているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

4 年間指導計画

	学 習 の 内 容	考査範囲	時数
前 期	4月 第1章 近代化と私たち 近代化への胎動	定期考査1	15
	5月 第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」		
	6月 第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成	定期考査2	15
	7月 第4章 帝国主義の時代		
	8月 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	定期考査3	16
9月 第6章 経済危機と第二次世界大戦			
後 期	10月 第7章 植民地の独立と脱植民地化	定期考査4	16
	11月 第8章 多極化する世界		
	12月 第9章 グローバル化と現代世界	定期考査5	16
	1月 第9章 グローバル化と現代世界		

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

日頃から新聞やニュースなどを見聞きし、社会全般に関心を持つこと。また授業を大切に板書や説明を参考に自分なりにまとめ、まとめたことについて考え、考えたことを発表できるようにする。
--

6 教科書・副教材

教科書・・・実教出版『歴史総合』

令和7年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	公共	単位数	2単位
区分	必修	配当年次	1年次

1 科目の目標

<p>①考察・選択・判断の手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。</p> <p>②現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意を形成し社会に参画することを視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>③よりよい社会の実現をめざし、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、人間としての在り方・生き方について考え、主権者として自国の平和や繁栄を図り、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切かつ効果的に情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価方法	①定期考査1～5の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査①～⑤の評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容をしっかり書き留めているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

4 年間指導計画

	学 習 の 内 容	考査範囲	時数				
前 期	第1部 公共の扉	定期考査1	15				
	4月 第1章 社会を作る私たち						
	5月 第2章 人間としてよく生きる						
	6月 第3章 他者とともに生きる						
	7月 第4章 民主社会の倫理						
	7月 第5章 民主国家における基本原理						
	8月 第1章 現代の民主政治と日本国憲法			定期考査3	16		
	9月 第2章 日本政治機構と政治参加						
	10月 第1章 現代の経済社会と国民生活					定期考査4	16
	11月 第2章 日本経済の特色						
12月 第3章 国際社会と人類の課題	定期考査5	16					
1月 第1章 国際政治の動向と課題							
2月 第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち							
2月 持続可能な社会作りの主体となる私たち							

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

日頃から新聞やニュースなどを見聞きし、社会全般に関心を持つこと。また授業を大切にし板書や説明を参考に自分なりにまとめ、まとめたことについて考え、考えたことを発表できるようにする。

6 教科書・副教材

教科書・・・『公共』(実教出版)

令和7年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	政治経済	単位数	2単位
区分	選択	配当年次	4年次

1 科目の目標

<p>① 現代社会で学んだ内容を基礎に、経済の仕組みや国内及び国際政治の諸事項について、具体的な事例や時事的な内容を参考にしながら学ぶ。</p> <p>② 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>③ 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基礎となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。</p>
--

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切かつ効果的に情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	①定期考査1～5の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査①～⑤の評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容をしっかり書き留めているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

4 年間指導計画

	学 習 の 内 容	考査範囲	時数			
前 期	第1部 現代日本の経済	定期考査1	15			
	4月 第1章			①経済活動の意義 ②経済社会の変容		
	5月			③経済主体と市場の働き ④企業の役割 ⑤国民所得		
	6月 現代の経済社会			⑥経済成長と国民の福祉 ⑦金融の役割 ⑧日本銀行の役割 ⑨財政の役割と租税・課題		
	7月 第2章			①日本経済の成長と課題 ②中小企業と農業 ③消費者問題 ④公害防止と環境保全 ⑤労働問題と労働者の権利 ⑥社会保障の役割と課題 ⑦現代日本における諸課題の探究		
	第2部 現代の国際政治・経済	定期考査4	16			
	10月 第1章 現代の国際政治			①国際社会と国際法 ②国際社会の変化 ③国際連合と国際協力 ④こんにちの国際政治 ⑤人種・民族問題 ⑥軍拡競争から軍縮へ ⑦日本の外交と国際社会での役割		
	11月					
	後 期			第2 現代の国際経済	定期考査5	16
	12月 第1章			貿易と国際収支 国際経済理論 外国為替市場のしくみ		
1月 第2章	第二次世界大戦後の国際経済 国際経済の動向 新興国の台頭 経済のグローバル化とICTでかわる世界経済 発展途上国の課題と展望 地球環境問題、資源エネルギー問題 経済協力と日本の役割					
2月						

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

<p>日頃から新聞やニュースなどを見聞きし、社会全般に関心を持つこと。また授業を大切にし板書や説明を参考に自分なりにまとめ、まとめたことについて考え、考えたことを発表できるようにする。</p>
--

6 教科書・副教材

教科書・・・『最新政治経済』(実教出版)

科目	教養社会	単位数	2
区分	選択	配当年次	3または4年次

1 科目の目標

生徒自身が自らの興味関心を糸口にして、教養を深める活動をする。異なる世代の文化に触れ、歴史的な積み重ねを意識しながら学習をすすめる。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
	<ul style="list-style-type: none"> 現代生活を送る上での必要な知識を身に付けている。 課題に取り組み、それを完成させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら研究課題を設定し、仮説と学んだ知識を比較して考えをまとめることができる。 実践を評価・改善し、考察を根拠に基づいて表現するなど、課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な人々と協働して、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
<ul style="list-style-type: none"> 学習プリントの完成度 作品の完成度 	<ul style="list-style-type: none"> 作品（制作過程を含む） 学習プリントの完成度 授業中の回答 話し合いの中での発言 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での説明を聞く態度 学習プリントの取り組み 話し合いの中での発言 出席状況 生徒の自己評価

4 年間指導計画

		学 習 の 内 容	時 数
前期	4月 5月	課題1 「日本史の基礎の探究」	16
	6月 7月	課題2 「世界史の基礎の探究」	13
	8月 9月	課題3 「地理の基礎の探究」	16
後期	10月 11月	課題4 「政治・経済の基礎の探究」	18
	12月 1月 2月 3月	課題5 「課題研究」	15

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

新聞や雑誌、SNSをみる場合には、情報リテラシーを持ってほしい。

6 教科書・副教材

なし

令和7年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	ベーシック社会	単位数	1単位
区分	選択	配当年次	4年次

1 科目の目標

中学校段階の地歴・公民の基礎的事項についての理解・定着をはかる。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	①地歴公民における基礎内容を理解することができる。 ②与えられた語群から適切な回答を見抜くことが出来る	①用語の差異や歴史背景の違いなどが理解できる。 ②文章を読み適切な用語を読み取ることが出来る。	①以前間違えた問題などを修正して覚えようと努力できる。 ②継続して勉強に取り組む姿勢が身についている。
	評価基準		
	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
・ 定期考査の成績 ・ ドリル一回ごとの成績 ・ 資料の活用	・ 定期考査の成績 ・ ドリル一回ごとの成績 ・ 提出物の完成度	・ 出席状況 ・ 生徒の自己評価

4 年間指導計画

		学習の内容	考査範囲	時数(予定)
前期	4月	地理分野の基礎事項	定期考査①	8
	5月	地理分野の基礎事項		
	6月	地理分野の基礎事項	定期考査②	7
	7月	(前半)地理分野の基礎事項 (後半)歴史分野の基礎事項		
後期	8月	歴史分野の基礎事項	定期考査③	8
	9月	歴史分野の基礎事項		
後期	10月	歴史分野の基礎事項	定期考査④	9
	11月	(前半)歴史分野の基礎事項 (後半)公民分野の基礎事項		
	12月	公民分野の基礎事項	定期考査⑤	7
	1月	公民分野の基礎事項		
2月	公民分野の基礎事項			
	3月	公民分野の基礎事項		

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

・ 前年度までに学んだ社会科に関する内容を中心に、毎日1枚プリント学習を行う。

6 教科書・副教材

教科書なし
